**2006年度　腎・尿路系Ⅰ　　07年１月30日実施**

（安達）

腎臓と尿管の記述について正しいものを選べ。

1. 尿管が一側から２本以上見られることがある。
2. 副腎静脈はかならず腎門から進入する。
3. 腎臓から流出リンパ管は乳ビ層に直接そそぐ。
4. 腎盂は腎門を通過する構造のうちもっとも腹側を通る。

（坂本）

尿細管の特性について正しいのはどれか（二つ）

1. 集合尿細管細胞ではブドウ糖、アミノ酸、尿酸などが再吸収される。
2. 細いヘンレループ上行脚は下行脚に比べると水の透過性が低い。
3. ＡＤＨの標的細胞は集合尿細管の間在細胞である。
4. アルドステロンは集合尿細管にはたらきかけ、Na再吸収やK分泌を促進する。
5. サイアザイド感受性Na+-Cl-共輸送体は近位尿細管に局在する。

（注）集合管を集合尿細管と坂本先生は表記しています。

（河原）

正しい組み合わせを選べ。

1. 近位尿細管―GLUT　（グルコース輸送体）
2. 近位尿細管―ENaC　（上皮性Naチャネル）
3. ヘンレループ（太い上行脚）－ＳＧＬＴ(Na+依存性グルコース輸送体)
4. 遠位尿細管―ＮＣＣ(NaCl輸送体)
5. 皮質集合管―ＮＫＣＣ２(Na+－K+－Cl-共輸送体)

（松本）

正しいものを選べ。

1. 急性前立腺炎はＳＴＤではない。
2. クラミジア性尿道炎に抗生物質を投与しても効果はない。
3. 急性尿道炎では熱発は絶対おこる。
4. 尿路結核では無菌性膿尿が特徴である。
5. 単純性尿路感染症には基礎疾患を有する。

（馬嶋）

60代の男性。高血圧治療のためにクロロサイアザイドを服用していた。

ある日、全身倦怠感、筋肉の痙攣、脱力、疲労感を主訴に来院。

（血液検査）Cr上昇、ＢＵＮ上昇、尿酸上昇（あとなにか・・・）

電解質異常

クロロサイアザイドの作用部位はどこか。

1. 近位尿細管
2. マクラデンサ
3. ヘンレループ（太い上行脚）
4. 遠位尿細管
5. 集合管

禁忌の治療はどれか。

1. カリウム補充
2. スピロノラクトン
3. クロロサイアザイドを減らす。
4. アミロライド
5. ジギタリス

（鎌田）

肉眼的血尿を示すものを二つ選べ。

1. 急性糸球体腎炎
2. 微小変化型ネフローゼ症候群
3. 膜性糸球体腎炎
4. ナッツクラッカー現象
5. 馬蹄腎

急性糸球体腎炎で見られるものはどれか。

1. 低血圧
2. 浮腫
3. 低補体血症
4. 低コレステロール血症
5. 血清IgA高値

（馬場）尿失禁の記述について誤りを選べ。

1. 腹圧性失禁は高齢の女性で経産婦に多い。
2. 陰部神経の遠心路は仙髄からの外尿道括約筋の緊張を制御する。
3. 腹圧性失禁の治療には外科的手術がある。
4. 切迫性失禁では尿意を感じることなく失禁する。
5. 溢流性尿失禁は前立腺肥大症で尿閉の場合に認められる。

（竹内）ケーススタディ(診断するのに用いたポイントを記載しておきます。)

30代男性

[主訴]　尿量減少

[現病歴]　生来健康。登山中に遭難、6日前より水は飲んでおらず、また食事も口にしていない。病院に運ばれたときは５kgの体重減少が見られ、尿量は減少していた。そしてそのまま入院となった。

[現症]意識清明。血圧（正常）　脈拍（正常）　整

　　　舌：軽度乾燥、皮膚緊張低下

　　　胸部；心音純　肺野清、腹部：異常（－）

　　　　　　下腿浮腫なし

[尿所見]蛋白（－）血尿（－）糖（－）　比重1.026

　　　　浸透圧600mOsm/kg　Cr 280mg/dl 　（他にNa、K、Clの値）

[血清生化学]総蛋白:8g/dl Alb:5.2g/dl BUN: 43mg/dl Cr:1.8mg/dl

 (他にNa,K,Clの値)

[腹部超音波]両側腎は正常大、水腎症（－）

＜問＞乏尿の病態診断はどれか。

1. 腎前性急性腎不全
2. 腎性急性腎不全
3. 腎後性急性腎不全
4. ネフローゼ症候群
5. 慢性腎不全

悪性高血圧にて生ずる病態で誤っているものは。

1. 急性脳症
2. 急性心不全
3. 急性肝不全
4. 急性腎不全
5. 血小板減少

（長場）慢性腎不全についてただしいものを選べ。

1. ＣＣｒは増加する。
2. 正球性正色素性貧血を認める。
3. 低Ｋ血症をきたす。
4. ＧＦＲはＲＰＦより大きい。
5. 代謝性アルカローシスを来たす。

（藤田）ＥＳＷＬの絶対禁忌を選べ。

1. 妊婦
2. 小児
3. 腹部大動脈瘤
4. 出血傾向
5. 不整脈

（守屋）尿細管間質性腎炎について誤っているものはどれか。

1. 治療の基本は原因の除去である。
2. 発症形式により急性と慢性に分けられる。
3. 腎機能低下を起こすことがある。
4. 急性尿細管間質性腎炎では腎の腫大が認められる。
5. 糸球体腎炎に続発することが多い。

（佐野）膜性腎症について正しいものを選べ。

1. Ａ型肝炎に合併する。
2. 成人発症は稀である。
3. ネフローゼ症候群を来たすことはない。
4. 腎静脈血栓症を合併することがある。
5. 組織所見で電顕で内皮下に沈着物が見られる。

（佐野）IgA腎症について誤っている記述はどれか。

1. 日本では原発性糸球体腎炎の約40％を占める。
2. 慢性の経過をたどり、20～30年の経過を経て、約30～40％でＣＲＦにいたる。
3. 組織所見、臨床所見により治療法が選択される。
4. 感染拡大から約一週間後に肉眼的血尿を呈する特徴がある。
5. 組織所見では蛍光顕微鏡でみるとメサンギウム領域にIgAによる発光がみられる。

（中村）以下の写真（カラー）をみて正しいものを選択せよ。

1. 常染色体劣性多発性嚢胞腎
2. 常染色体優性多発性嚢胞腎
3. 多嚢胞性異形成腎
4. ５歳正常腎
5. 胎児正常腎



（宋）以下の文章に当てはまる単語を下記から選べ。

**先天性水腎症の原因疾患としては、閉塞性尿路疾患が多い。そのなかでも**

**（１）と尿管膀胱移行部狭窄症が多い。特に男児については（２）が多く、時に高度の水腎症と排尿障害を来たし、緊急に治療が必要である。また、膀胱尿管逆流症は尿路感染症がきっかけで診断されることが多いが、診断には（３）を行い、逆流を確認する。急性腎盂腎炎を繰り返すことで、腎の（４）が進み、腎機能が著しく障害を受けることがある。（５）は腎上極の水腎症を伴うことが多く、尿管瘤を合併することがある。**

　＜選択肢＞

排尿時膀胱尿道造影，静脈性腎盂造影，腎盂尿管移行部狭窄症，重複腎盂尿管，

尿道下裂，瘢痕化，腫大化，陰嚢水腫，後部尿道弁・・・などなど